

福島原発事故で野田首相が「収束」宣言

どこが「収束」か!!



汚染水漏れ、炉心状態も不明なのに

↑3号機(東電9月撮影)

野田佳彦首相(原子力災害対策本部長)は12月16日記者会見し、東京電力福島第1原発の未曾有の事故について「原子炉は『冷温停止状態』に達し、事故そのものは収束に至ったと判断できた」として、事故収束に向けた工程表の「ステップ2」完了を宣言しました。

しかし、3基の原子炉は炉心溶融(メルトダウン)を起こし、事故から9カ月たった今も、溶けた燃料の状態がわからない上、放射能汚染水は増え続け、放射性物質の外部への放出も止まっています。避難した住民が戻るメドもたってはいません。避難した住民や専門家からは、“とても事故収束とは言えない”“現実をみていない”と疑問や批判の声があがっています。

マスコミも「達成強弁 実態は道半ば」東京新聞

マスコミも批判や疑問の声をあげています。
「『収束』宣言は早すぎる」(朝日社説)
「本当の収束からはほど遠い」(毎日社説)
「幕引きとはあきれ返る」(東京社説)

くわしくは日本共産党ホームページで <http://www.jcp.or.jp/>

今こそ

原発ゼロの日本を

汚染水などのトラブルや、放射能におびえる国民の不安、そして除染をめぐる苦しむ自治体の姿など、原発事故の被害状況は、それこそ毎日のように報道されています。そのたびに多くの方が心を痛めています。事故の収束宣言なんて、とんでもありません。

いま政府がやるべきは、いったん事故がおきればとりかえしのつかない被害をもたらす原発からの撤退を決断することです。そして事故の全体像を明らかにし総力をあげ必要な対策をとること、避難を余儀なくされている方をはじめ被害を受けた人への全面賠償、汚染地域をもれなく除染するために、本腰をあげてとりくむことです。

日本共産党は全力をあげます。一緒に「原発ゼロ」の日本をつくりましょう。

日本共産党

福岡県委員会

電話 092-411-5131 info@fjcp.jp



日本共産党福岡県委員会の見解を紹介します。●2011年12月号外●発行：福岡民報社

●1964年12月9日第三種郵便物認可●〒810-0022 福岡市中央区薬院3-13-12 大場ビル3階